

## 東海国立大学機構

### 機構長あいさつ

名古屋大学と岐阜大学が法人統合して誕生した国立大学法人東海国立大学機構は発足6年目を迎えました。日本トップクラスの地域の中核大学を目指す岐阜大学と、世界と伍する研究大学を目指す名古屋大学の強みを生かし、東海国立大学機構は「Make New Standards for The Public」をミッションとして掲げ、社会の公共財（コモンズ）として地域と人類社会の課題解決に貢献する新たな国立大学を確立することを目指しています。

東海国立大学機構のミッションを体現する場として、Common Nexus（コモンネクサス）が2025年7月にオープンしました。愛称は「ComoNe（コモネ）」です。ComoNeは、東海国立大学機構の研究成果や教育資源等を公共財として広く社会の人々に発信することで、イノベーションを継続的に共創し、社会の課題解決を含む社会の発展に寄与する活動を支援するための施設です。脱炭素化を見据えて環境に配慮した建物であり、屋上を緑地化することで、かつての学生や近隣住民の憩いの場を再現しました。東海国立大学機構の構成員だけでなく、近隣の方、子どもたちなど、すべての人に開放しています。皆さま、ぜひ一度お越しください。

気候変動や資源の枯渇といった環境に関する諸問題の解決に向けて、東海国立大学機構は教育・研究活動を通し、人類社会の進歩と持続的発展が可能な社会の構築に貢献しています。キャンパスのカーボンニュートラル達成に向けて「2030年に温室効果ガスを51%（2013年比）以上削減し、2050年までのできるだけ早い時期にカーボンニュートラル実現」という目標の下に、二酸化炭素排出量を削減する



ロードマップを策定し、カーボンニュートラル推進室を司令塔として、脱炭素社会の実現に向けた地域連携や研究推進に取り組んでいます。キャンパスのエネルギー消費削減を推進するため「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」という指針のもとに地道な省エネ活動にも取り組んでいます。また、東海地域におけるオープンイノベーションを生み出す拠点として始動した「Tokai Open Innovation Complex (TOIC)」では、産学官連携研究のためのラボスペースだけでなく、産学交流のためのワーキングスペースの提供や、交流を促すイベントの開催などが企画されています。TOICではカーボンニュートラルを重要な研究課題の一つとしており、東海国立大学機構の強みでもある産学官連携をより一層強化するとともに、これらの一連の活動を世界に発信していきます。

「東海国立大学機構環境報告書2025」では、東海国立大学機構の象徴となるComoNeとその環境対策を紹介しています。また、カーボンニュートラル達成に向けた取組、環境に関する研究、教育、社会貢献活動、学生の環境活動などを様々な切り口で紹介しています。持続可能な社会の構築に向けた東海国立大学機構の取組をぜひご一読いただき、今後とも一層のご理解とご支援をいただければ幸甚です。

東海国立大学機構 機構長

松尾 清一



TOKAI NATIONAL  
HIGHER EDUCATION  
AND RESEARCH



MAKE NEW STANDARDS.  
東海国立大学機構

